

山口典久議員の11月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。



令和3年度当初予算編成方針について

山口 コロナ感染症の影響で県財政は厳しい状況にあるが、県民はコロナ後の希望もてる政治、社会を求めている。来年度予算では、医療、介護、福祉など命を守る手厚いケアの抜本的強化を位置付けてほしい。

知事 命を守り育む県づくりを着実に進める。暮らしを支えるセーフティーネットである扶助費の見直しは、ご指摘の通り暮らしに大きな影響を及ぼす恐れが多い。実情に十分配慮しながら慎重に検討する。

高齢者の補聴器購入への支援を

山口 高齢者から、補聴器は高額であり公的支援を求める声が高まっている。市町村と共同して補助制度を。

健康福祉部長 加齢性難聴は、社会参加の意欲を低下させ、認知症の危険因子である可能性もある。しかし補助は全国的にはごく少数であり財源の健闘も必要。引き続き課題として研究していきたい。

自然学校への支援について

山口 山村留学は、子どもの自立心を育て中山間地の児童の確保や地域の活性化に大切な役割を果たしている。コロナで打撃を受けており、発展のためにも支援が求められている。

企画振興課長 情報発信、情報提供の機会や場の提供など、広域的視点で支援したい。

高校再編について

山口 教育委員会は高校の再編整備を進めているが、伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校の再編統合など再検討を求める声が急速に広がっている。とても住民の理解や納得を得たものとは言えず、再検討を求める声に丁寧に対応すべきと考える。

教育長 広く県民の意見を聞き、改革の指針を策定して地域とともに進めてきた。

❖質問を終えて❖

令和3年度予算編成は、前向きな知事答弁でした。高齢者の補聴器は、たくさんの皆さんから切実な声をお聞きしています。実現に向けてさらに頑張ります。高校再編は、あくまでも県民の声を聴いていると言い張る教育委員会です。

